

## 令和7年度第2回京都市スポーツの絆が生きるまち推進会議 摘録

日時：令和7年12月9日（火）午前10時～正午

会場：分庁舎第5・6会議室

出席：

【委員】松永委員長、長積委員長代理、碓委員、武田委員、春田委員、比護委員、松崎委員、吉田委員（欠席：武内委員、田中委員、三宅委員、森田委員）

【事務局】山口市スポーツ担当局長、平井市民スポーツ振興室長、松浦京都マラソン・ワールドマスタースゲームズ担当部長、三谷スポーツ担当参事、水谷スポーツ企画課長、中村スポーツ施設課長、村松公民連携型整備推進担当課長、西本スポーツ活動推進課長、加島京都マラソン推進課長、大西担当係長

【関係局】保健福祉局障害保健福祉推進室 遠藤企画・社会参加推進課長  
子ども若者はぐくみ局子ども若者未来部 藤田青少年・若者・まなび担当課長

### 1 開会

### 2 議事

#### （1）【議事1】次期京都市市民スポーツ振興計画について

○説明資料：資料2、参考資料1（事務局）

（松永委員長）

- ・ 前回会議で、事務局からも委員長・委員長代理からもきちんと説明できていなかったが、京都市の新たな基本構想の策定作業が進められている。現在の基本構想が策定されたのが25年前のため、現委員にしてみれば基本構想の検討過程に関わるのは初めてのことである。今回の新たな基本構想の特徴としては、基本計画と統合されて一つになるという点にあり、市民スポーツ振興計画については、これまでは京都市基本計画にぶら下がっていたが、その基本計画がなくなるため、この京都基本構想のもとに、次期市民スポーツ振興計画を策定していく必要があることを改めて理解いただければと思う。

（事務局）

- ・ 基本構想（案）で「スポーツ」という文言が直接的に入っているのは、第四章 第一節（3）のうちの一文。関係するところで、「健康」という文言が入っているところは第四章 第三節（2）、第二節（2）も、間接的に健康に対応するものとして位置付けられている。

（松永委員長）

- ・ 第四章 第三節（2）の「健康で文化的な生活」は、スポーツ基本法の「健康と幸福」に近い文言。スポーツという文言がもう少し小見出しぐらいには出てきてほしかった。既にパブコメも終了しており、今後内容の一部見直し等があるかはわからないが、この先25年間をターゲットとするこの基本構想（案）を基に、次期スポーツ振興計画の策定となることをご理解いただきたい。

(長積委員長代理)

- ・ 基本構想(案)で唯一、第四章にスポーツという言葉があるが、スポーツに限らず健康や運動が、夢・感動・学びだけでなく、生活の質を向上させ、人々の幸福に資するみたいなことを盛り込んでもらえる、今回のスポーツ振興計画と連動しやすいかと思う。
- ・ また、資料2の4ページについて、「ウェルビーイングなまちづくり」は非常に大事な視点かと思うので、アンケートにも組み込んでいただきたい。
- ・ これからの健康づくりやスポーツ政策に求められるところは、社会課題の解決ということが非常に重要と感じている。次期スポーツ振興計画そのものが、ウェルビーイングなまちづくりにも関連してくるのであれば、京都市の社会課題の解決について、スポーツがどのように貢献し得るのか、資料に記載の政策(考えられる視点)に盛り込んでもらいたい。
- ・ 現行スポーツ振興計画ではリエゾンという言葉を使っているが、その言葉を使わなくとも、多様なステークホルダーが政策や施策へ関与して参画をしていくことを重視し、しっかりと見えるようなものにしてもらいたい。

(比護委員)

- ・ 京都府の第2期スポーツ推進計画の策定に携わったが、文字が多い計画は読まない人が多い印象があり、柱立てをして項目を分けることとした。各分野の施策に対してどの部署が関わっているのか整理したことにより、事業内容や不足している事業、不足しているステークホルダーなどがわかりやすくなった。また、障害のある方にも読んでいただけるように、音声ガイド(uni voice)を工夫して添付した。

(松永委員長)

- ・ 計画は、いかに多くの方に認知・理解してもらって、推進に役立てていただけるかが重要なので、こういった意見もいただきたい。

(武田委員)

- ・ スポーツの概念について、スポーツを楽しむことだけでなく、スポーツが健康増進やウェルビーイングなまちづくりに繋がることを具体的に表現して、計画に織り込んでいくことが必要かと思う。その一方で、ウェルビーイングという言葉の概念の広さやまちづくりとの連携という点は非常に捉えがたい部分があり、京都市スポーツ協会でも検討を進めているが、なかなか見えにくいのが実情である。これらの言葉に込めた想いを次期振興計画の中のどこに散りばめていくのか、誰に伝えていくのかを考える必要がある。

(松永委員長)

- ・ 京都市として、伝えたいことの言葉選びはよく検討してほしい。

(松崎委員)

- ・ 参考資料として添付されている京都府の計画(概要版)は内容が分かりやすい。市のスポーツ振興計画もわかりやすいものにすべき。まずはスポーツの良さを理解してもらうことが重要で、そのうえで京都らしさを加えるぐらいの気持ちで計画を作るべきかと思う。
- ・ スポーツは一旦、活動を中断するとリスタートするのが難しいという声を耳にすることが多い。スポ

ーツをするための環境づくりは、スポーツの良さをわかりやすく伝える方法のひとつだと思う。また、自身が「する」だけでなく、「支える」には「応援する」という観点も含まれると思うが、応援という行為もスポーツの良さのひとつであるので、積極的に計画に取り込んでほしい。

(松永委員長)

- ・ 「スポーツは楽しい」という根本の部分をうまく伝えられる計画とし、見てもらえるものにする必要がある。
- ・ 資料2の4ページの「考えられる視点の例」には、本日出た意見も、京都市の視点として次回の会議や資料にも取り込んでほしい。

## (2)【議事2】国の第4期スポーツ基本計画の検討状況について

○資料説明：資料3 (事務局)

(松永委員長)

- ・ 国の第4期スポーツ計画は、ハイパフォーマンスからライフパフォーマンスということで、トップアスリートだけがターゲットではなく、一般市民の生活にも生かせるようにと議論が行われている。スポーツ基本法改正の中で、e スポーツ振興が加えられたが、京都市としても取扱を検討する予定である。

## (3)【議事3】次期京都市市民スポーツ振興計画策定に向けた調査について

### ア 市民アンケート調査について

○資料説明：資料4-1、4-2 (事務局)

(松永委員長)

- ・ 事務局からの説明に対して1点補足する。資料4-2の種目選択については、国調査は60種目、府調査も国に準じてほとんど同数のスポーツの種目を選択肢としている。こちらに関して京都市は、「スポーツ」ではなく、「運動・スポーツ」という名称になっており、京都市独自のオリジナルとなると認識いただきたい。
- ・ これまでの京都市とこの委員会の方向性として設定されている選択肢「日常生活に組み入れた運動」については、国の健康スポーツ部会でも話題になり、例えば、国は階段昇降など、「運動目的を持った・意図的にしている運動」はスポーツとみなして項目に入れているが、そうすることで「スポーツ」実施率などの必要な数値は正しく取れるのか、という議論が国では続いている。
- ・ 京都市はあくまでも「運動・スポーツ」としていることと、この調査では、とにかくスポーツ競技の実施者を増やしたいということだけでなく、体を動かして健康に繋げる、体を動かすことを日常生活に取り入れる、という人たちの状況を把握する調査であり、報告書も他に参考にされることになると思う。

(比護委員)

- ・ 問19-2の総合型地域スポーツクラブの欄について、「担い手」という説明の表現が分かりにくく、「地域コミュニティの場」としてはどうか。

(春田委員)

- ・ 「担い手」という表現は、わかりづらく馴染みにくいので、比護委員がご指摘のとおり修正いただきたい。
- ・ 市民の皆さんが、全員スポーツが好き、得意で、しているわけではない。運営しているクラブでも、意識してスポーツをしているというよりも、ちょっと体を動かしたい、健康づくりのために運動をして医療費を削減したい、という目的で参加される方が非常に多い。総合型地域スポーツクラブがそういう場でもあることを、もう少しわかってもらえたらと思う。

(松永委員長)

- ・ こういうご意見を踏まえて、調査を全体的に、スポーツ目的ではなく、健康づくりなどを目的として運動されている方にも回答しやすいような配慮が必要かなと思う。

(吉田委員)

- ・ 問19-3は、「スポーツ推進委員」という組織を知っていただける機会になりありがたい。おそらく、「体育振興会」は知っていても、「スポーツ推進委員」を知っている人は少ないだろう。設問の選択肢は、「知っている」「知らない」の2択で良いと思う。実際に委員になっている人以外は興味がないと思う。また、説明にあるスポーツ基本法などについても、知らない市民がほとんどだと思うので、具体的に推進委員がなにをやっているのか、わかりやすく書いたほうが良いと思う。
- ・ 調査対象が3,000人という理由はなにか。

(松永委員長)

- ・ こういった調査は言葉を知ってもらういい機会になるため、わかりやすい説明と簡潔な選択肢の設定は重要だと思う。ただ、大学のスポーツの講義ではスポーツ推進委員の話もあり、興味を示す大学生もいる。存在を知っている方が参加できるような仕組みに変えるという趣旨も含め、興味の有無を尋ねる項目があってもよいかなと思う。おっしゃる通り、体育振興会とスポーツ推進委員の関係性と役割の説明もあったほうが良いと思う。
- ・ 市民調査で無作為での3,000人は一般的によく用いられる数字である。

(事務局)

- ・ 前回調査も無作為抽出3,000人で実施し、調査の継続性という点で同様にしている。

(淀委員)

- ・ 質問設計に関して、今回実施される調査自体は毎年行われるものなのか。それとも次回は5年後か。

(松永先生)

- ・ 振興計画の策定に関わる大掛かりな調査は5年に1回だが、「する・みる・支える」のスポーツ全般に関する基本項目に関しては、毎年、京都マラソン開催後に実施しているアンケートで尋ねている。

(淀委員)

- ・ 現状を捉え、次の調査でどこまで数値を上げられるかも検証のひとつであるが、属性に関する設問で意見がある。京都市の課題かどうかは別として、18歳未満の方は直接回答できない状況であるが、子

どものスポーツ実施状況を親が代理回答するなど、子どもの実態を調査する必要はないのかと思った。

- ・ また、子育て世代もしくは共働きかどうかは、この属性の選択肢では見いだせないのではないか。子どものスポーツ実施状況は親の余暇時間等にも関係するため、子どもの子育ての状態を押さえておくことも必要ではないか。
- ・ 「みる」に関しては、あくまで現地観戦の回答が前提となっているが、オンラインなどで見る環境が整ってきている中で、今後の目標値に関しても、現地観戦だけでなく、現地でなくてもスポーツを見ているという方たちの状況を具体的に捉えていくことも必要ではないかと思う。チケットが取れなかったなど、現地で見たいが見られなかった人たちが、全て問13で「テレビ等での観戦で満足しているから」に振り分けられてしまうのでは、実態を把握しきれないのではないかと思う。
- ・ 「支える」についても、この調査での定義では、あくまでボランティアで協力することを指しているが、企業や個人の立場からすると、例えば、スポーツ施設の維持のために行った寄付という行為も「支える」に該当するのではないか。「みる・支える」に関しては、社会における捉え方が変化してきていることも意識すべきではないかと思う。

(松永委員長)

- ・ 属性に関する指摘は重要なところ。確かに、子育て世代の女性のスポーツ実施率が低いことは明らかになっている。この点について、過去に実施した調査では、末子の年齢を聞くことで、ある程度その家庭の子育て状況を把握することができる。未就学児がいる女性はスポーツ実施率が下がり、3歳以下の子どもがいる女性はさらに数字が下がることがデータとして出てきている。そうした層をいかにサポートしていくかというところで、例えば、子育て支援と連携していく必要があることが見えてきたりする。調査手法に関しては、子どもの代理で保護者が回答するやり方や、末子の年齢が何歳以下の保護者だけ回答するようにする方法もある。

(事務局)

- ・ 子どもに関する調査を別立てで実施することは難しい。淀委員、松永委員長のご意見を踏まえ、選択肢を工夫することで検討したい。
- ・ 「みる」については、経年比較のため、前回と同じ設問とし、「直接見なかった理由」を尋ねる中に、テレビ等の理由を記載しカバーしている認識であるが、ご指摘のとおりオンラインでの視聴環境が整ってきているという状況を踏まえ、再考する。
- ・ 「支える」についても、ご指摘のとおり、多様な支援の形があるが、今回の調査においては、「支える＝ボランティア」という定義とさせていただければと思うが、一度検討させていただく。

(松崎委員)

- ・ 今回のアンケート用紙の中に、過去のアンケート調査結果を踏まえて取り組まれた実績などを掲載すると、より計画の有効性を示すことができ、回答率が上がるのではないか。また、インターネットでの回答に限るが、わかりにくい言葉や知ってほしい言葉の説明などにリンクをつけてより知ってもらう工夫もできるのではないか。

(松永委員長)

- ・ 説明文にリンクをつけることは難しい点もあるが、貴重なご意見である。表紙に二次元コードを掲載し、回答方法を選べるようにしている。過去の結果等について、同様にリンクから飛べるような工夫も

検討いただければと思う。

(武田委員)

- ・ スポーツだけでなく、ちょっとした運動などウェルビーイングの観点からも回答できるような選択肢、アーバンスポーツなどを具体的な競技名をあげての選択肢を設定するなど、よく考えられていると思う。難しいが、3,000名のうち、回答いただけた方の属性に偏りが生じないような工夫をしてもらえたらと思う。

(長積委員長代理)

- ・ 運動している人のほうがウェルビーイングを実感している人が多いというデータは出ている。幸福感に関する問い、主観的ウェルビーイングに関する問いは入れたほうが良いのではないか。
- ・ 毎年、京都マラソンでも、政策評価に必要なデータを取っているため、そことの整合性を図る必要があると思う。
- ・ 問1で、京都マラソンの調査同様、時間の平均値が取れるように、尺度が構成されるほうが良いと思う。この選択肢の時間の間隔に特別な意味がなければ、できる限り平均値が算出できるようにして、後で分類分けするほうが良いのかなと思う。問6に関するところも同様。
- ・ 問7については、選択肢11の「仕事や家事や育児が忙しく時間がなかったから」の「時間がなかったから」は、時間を取れなかった具体的な理由は分かっており、削除してもよい。選択肢14もこの聞き方では何が阻害要因になっているかは知りえず、単なる「めんどうだから」というものであるならば除外してもらいたい。問13、問16も同様。
- ・ 問8の「今後」は、どれぐらい先のことをイメージしているか具体的な期間を明示してほしい。
- ・ 問9は、「現在行っているものも含めて」は必要ないと思う。
- ・ 問12は、京都マラソンの調査では、スポーツの視聴方法に関するデータをすでに取りっているため、整合性を考えると、直接観戦と間接観戦の両方を調査する方がよいと思う。
- ・ 問19は、吉田委員が言われたとおり、調査だけでなくPRの機会にもなるためぜひ調査してほしいが、そのほか、スポーツ協会等の団体についての調査項目も一度再検討してもらいたいと思う。また、「名称を知っている、活動を知っている」の認知度を尋ねる方法が対策を打ちやすいため、この組み合わせの方が良いかと思う。
- ・ 問20からの部活動の地域展開に関する設問で、これも京都マラソンの調査と整合性を確認してほしい。
- ・ 問24で、日本スポーツ協会などもスポーツの価値に関する設問を設けているが、医療費の軽減や経済の活性化など、スポーツの価値が他にもあるはずで、今回のアンケート案に示されている6つというのは少ないように思う。するスポーツに限定しないのであれば、スポーツの価値についてはもう少し他の選択肢を示してもらえないかと思う。
- ・ 問26は、「スポーツを取り入れたほうがよい」は、問の意図が分かりづらいため、もうちょっと表現変えてほしい。
- ・ 最後の属性に関して、年齢や余暇時間は問1と同様に比例尺度でとれるよう数字で聞いてほしい。

(松永委員長)

- ・ 京都マラソンの調査は、ランナー・個人ボランティア・市民を対象に実施している。京都マラソンを継続実施するにあたって必要な情報を得る目的で行っているが、京都市の振興計画策定に必要な項目の一部も含めて毎年調査している。確かに、毎年のマラソンの調査との整合性は必要な面もあるた

め、再検討したい。

- ・ 問2の選択肢にあるパラスポーツの表現に関しては、聴覚障害者の方向けのデフスポーツ等の兼ね合いもあり、これでよいのか事務局側で再検討してほしい。なお、国や府に比べ、種目の選択肢を思い切って半分にして、あとは自由記述ということに関しては、特に意見等がないためこのとおりとさせていただきます。
- ・ 委員の皆さんには非常に短い時間の中での資料を読み込んでいただき、本日もご意見賜り感謝申し上げます。改めてご意見等があれば、12日まで承り、その後、事務局と調整のうえ、委員長一任ということで最終決定させていただきます。

### (3)【議事3】次期京都市市民スポーツ振興計画策定に向けた調査について

#### イ 団体アンケート調査及び個別ヒアリングの実施について

○資料説明：資料5（事務局）

（松永委員長）

- ・ 前回調査から、委員会の皆様の他にも、かなり幅広く団体を追加している。アンケートとヒアリング内容についてこれから詰めていくことになるが、関係団体一覧で、意見があれをお願いしたい。

（碓委員）

- ・ 企業の立場から確認だが、経済団体のところで、この4社がリストされている理由は。

（事務局）

- ・ 施設やスポーツチームを保有している企業その他、ネーミングライツや京都マラソンへの協力をされているなど、スポーツへの感度が高いと思われる企業を挙げさせていただいている。

（松永委員長）

- ・ 団体アンケートとヒアリングの実施については、選定した基準を明確に整理しておいていただきたい。

### (4) その他

○資料説明：参考資料3（事務局）

- ・ 特に意見等なし

## 3 閉会

（以上）